闘争宣言

社会主義学生同盟

試験休みを終え、学園に復帰したすべての学友諸君に、われわれは言わねばならない。10月8日、羽田における佐藤訪ベト阻止斗争において、われわれは京大生山崎博昭の生命を官憲の手によって奪われた。そして、彼の死を"れき死"として発表し、更には破防法の適用まで考慮するという弾圧がかけられている。われわれは政府、マスコミ一体となった反動キャンペーンを粉砕し、羽田斗争を更に飛躍すべき全国斗争を斗わねばならない。10・21国際反戦斗争を断乎斗い抜くこと、これこそが反動と専制の佐藤内閣を打倒する道である。学友諸君!10・21教養、シニア文科系ストに決起せよ!

10、8羽田闘争の意味は何か

商業ジャーナリズムに「暴徒」とののしられながらも、全学連、反戦青年委に結集した戦斗的労働者、学生の果敢な斗いは、階級斗争を国際的に結合し、世界各国で斗う人々に大きな激励を与えた。のみならず、政府官憲の徹底した弾圧は、日本帝国主義の本質と戦略をくっきりと浮彫りしている。東南アジア市場確保を生命線とする日帝を打倒するためには、今や一切の妥協と取り引きではなく、実力斗争以外にないことは現下の情勢の厳しさを物語っている。

山崎君の屍をのり越え、10・21ストを全国実力闘争として闘おう!

機動隊の警棒の乱打の中に山崎は斃った。そしてそのあとにはマスコミの悪質な「統一」して流されている。事実については我々は、既に明らかにしてきたし、これからも究明するであろう。だが、いきどおらねばならぬことは、死を契機に全学連、反戦青年委、革命的左翼を、現体制をのりこえた突出部分に対する弾圧体制が一層強化されつつあるということにあるのだ。帝国主義者と、それに追従するゴロツキマスコミ、日共スターリン主義者の意図は、全学連を中心とした戦斗的運動をたたきつぶすことにある。学友諸君、今われわれが退くことはわれわれの運動が再起不能に陥る迄後退することを意味する。弾圧に屈するのか、それとも更に前進するのか、その重大な岐路にわれわれは立っていることを認識せねばならない。

そして、後退を拒否し、前進を約束するものは何か?

それは、羽田で示した全国の斗う労働者、学生のエネルギーを10月21日、国際反戦統一行動を全国、全世界人民の斗いと結合してうつことに他ならない。まさにそれこそが警棒の嵐の中に斃った山崎への最大のとむらいであり、彼の屍をのりこえるべき斗いの第一歩である。

再び諸君に訴える。すべての民主主義者、社会主義者は羽田斗争を断乎支持しなければならない。そして、再度安保の烽火を打ちあげるべく市大教養、シニア文科系ストライキを総力をあげよう。

わが同盟は一切の政治生命をこの斗いに賭けることを諸君に宣言する。すべての先進的学友は本日のストライキ実行委(ろじ、21教室)に結集せよ。

10.21教養・シニア CEJL ストに決起せよ!